

女性政治塾 続々

多様な人を議員に

壁を乗り越えよう

十六日の参院本会議で成立した「政治分野の男女共同参画推進法」。選挙の候補者数を男女均等にしようとする内容で、成立を見越して政党や有識者らが女性の政治参加を後押しする「政治塾」を相次いで開講している。機運の高まりを、女性議員の増加につなげることができるか。各党の本気度がカギになる。

(坂田奈央、柏崎智子) 〇面参照

推進法成立 政党の実行力カギ

「なぜ女性は政治に参加しにくいのか」

「どうしたら『壁』を乗り越えられるか」

今月七日夜、高校生から三十五歳までの女性約三十人が東京都内で議論していた。上智大の三浦まり教授らが開講した「女性政治リーダー養成講座」の初会合。終了後、東京都から参加した女性(三三)は「独身の人や子育て中の人、いろいろな職業の人が女性議員になれば心強いし、挑戦したいと思える」と話した。

講座は国会や地方議員の活動に関心がある女性を対象に、選挙の知識などを伝



「女性政治リーダー養成講座」で議論する参加者たち＝7日、東京都港区で

え、立候補を後押しするのが目的。三浦氏らが講師を務め、七月まで全五回の開

催を予定しており、主催者の一人であるお茶の水女子大の申琪栄准教授は「女性のネットワークを広げたい」と強調する。

政党では自民党が四月末に「女性未来塾」を開講し、約百人が参加。野田聖

子総務相も四月に地元の岐阜市で女性向けの政治塾を立ち上げ、約八十人が入塾した。応募は二百人近くに達したという。

ただ、国会議員の女性比率は今も一割強にとどまる。推進法は強制力のない

元参院議員の円より子さんが校長を務める「女性のための政治スクール」は、一九九三年に開講した草分け的な存在。受講者のうち約百人が国会議員や地方議員になった。円さんは「推進法の成立で、スクールの

「政治分野の男女共同参画推進法」の成立を受け、三年前から制定を目指してきた超党派の国会議員連盟は十六日、国会内で総会と記者会見を開いた。

会長の中川正春衆院議員(無所属)は「全員賛成で成立した意義は大きい」と述べつつ、「これは出発点」と強調。引き続き議連で女性議員を増やす実効策となる制度や法律の整備を議論する考えを示した。

議連幹事長の土屋品子衆院議員(自民)は「まず地方議会で女性議員を増やしたい。少子高齢化でなり手が少ないのはチャンス」と語った。中川会長は、議席や候補者の一定比率を女性に割り当てるクオータ制に触れ「導入しレベルを引き上げることも必要」と話した。

女性参画への「出発点」



法案が成立し、記者会見で笑顔を見せる超党派の国会議員ら＝16日午後、東京・永田町の衆院第1議員会館で

超党派議連が実効策議論へ

総会には推進法を求めてきた女性団体のメンバーらも出席し、ともに祝った。記者会見では、女性議員

を増やす具体的な筋道について質問が集中。議連は発足当初、衆院選の比例代表の候補者を男女同数にできるようにする公職選挙法改正案も提案したが、各党の同意を得られなかった経緯がある。